

俳句の可能性

どの子にも 涼しく風の 吹く日かな 飯田龍太

どの子にも涼しい風が吹いている日であるなあ

季語 季節 句切れ 切れ字

いくたびも 雪の深さを 尋ねけり 正岡子規

積もった雪がどれくらいの高さになったかを、何度も尋ねてしまったなあ

季語 季節 句切れ 切れ字

跳箱の 突き手一瞬 冬が来る 友岡子郷

とびばこをとぼうと手をついた瞬間に冬の訪れを感じたよ

季語 季節 句切れ 切れ字

たんぽぽの ほぼと絮毛の たちにはり 加藤楸邨

たんぽぽの綿毛が『ほほ』とした様子でたっているよ。

※擬態語の『ほほ』って実際に声に出した時の唇の感じと音の響きが綿毛に似ている

季語 季節 句切れ 切れ字

分け入つても分け入つても青い山 種田山頭火

山の中を分け入つても分け入つてもずっと青い山が続いていくなあ

季語 季節 句切れ 切れ字